

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-2 地域生活交通の確保

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 交通対策課長 伊藤 宏 電話番号 0852-22-5898

事務事業の名称	バス路線運行維持事業	
目的	(1) 対象	バスを利用する県民
	(2) 意図	利用しやすいダイヤと便数を確保し、必要な路線を維持する
事業概要	住民に身近な交通手段である路線バスを維持・確保するため、民間バス事業者や市町村に対し、財政的支援を行う。 ・地域間幹線系統確保維持費補助金：広域的・幹線的なバス路線を維持するため、国と協調した民間バス事業者へ支援 ・広域バス路線維持費補助金：広域的・幹線的なバス路線を維持するため、民間バス事業者へ支援 ・生活交通確保対策交付金：地域の路線、通学や通院への路線等を維持するため、市町村へ支援	

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	補助金又は交付金の対象としている生活交通路線の年間利用者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	目標値	実績値	達成率			
				4,432	4,456	4,481	4,914		千人
					100.50	101.10	110.90		%
指標名	式・定義	補助金又は交付金の対象としている生活交通路線の年間利用者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値	実績値	達成率				
				0.00	0.00	0.00	0.00		
				0.00	0.00	0.00	0.00		%

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	335,854	340,457
うち一般財源(千円)	335,854	340,457

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・生活交通バス路線は、自家用車を運転できない高齢者や児童生徒にとっては、必要不可欠な交通手段である。本県においては、その9割以上が不採算路線であり、民間事業者だけでは維持していくことは困難であることから、地域の意向や実情に合わせて適宜見直しを行いながら、財政支援を行っている。  
 ・平成23年度からは、広域バス系統、広域通学系統、市町村が地域の実情に合わせた路線を維持するための支援を実施している。平成26年度からは、広域通院系統を支援対象に拡充した。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

・民間事業者が運行する路線は、廃止・減便傾向にあったが、補助事業により県民の足として路線バスの維持確保につながっている。また、一部には観光客の取り込みも行われ、利用者が増加している系統もあった。  
 ・市町村有償運送等の生活交通確保対策交付金対象路線については、市町村の自主的な運行見直しにつながり、対象路線の利用者が増加した。また、通院系統が補助対象になったことで、年間利用者が大幅に増加した。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

・多くのバス路線が不採算路線であり、財政支援がなければ、路線の維持確保が困難な状況にある。  
 ・国補助制度の変更により、今後、バス事業者への補助金の減少が見込まれている。

### ②困っている状況が発生している「原因」

・少子高齢化、自家用車の普及により、生活路線バスの利用者数は減少傾向にある。

### ③原因を解消するための「課題」

・生活バス路線の利用促進に向けた取り組み等を行う必要がある。  
 ・中山間地域の交通弱者の移動手段を確保していく必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・鳥根県生活交通確保対策協議会や市町村が設置する地域公共交通会議の場において、平成26年度に実施したニーズ調査結果を踏まえて、利用促進策等の検討を行う。  
 ・中山間地域の交通弱者をはじめとする地域住民の移動手段の確保を確保していくため、集落間交通の対する運行面での支援や、地域の実情に応じて最適な交通手段を選択できるような支援制度など、今後の支援のあり方について、市町村等と検討を進めていく。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）